

人民革命の時代を

ともに切り開こう

一九九〇年五月三〇日—日本赤軍

冷戦構造の崩壊は、ヨーロッパを中心に、
或いは社会主義の問題として論じられがちだ
が、第三世界の解放闘争にも大きな影響を及
ぼしている。そうした観点から問題を考える
ために、日本赤軍の論文「人民革命の時代を
ともに切り開こう」の要旨を紹介する。

パレスチナ革命をとり、
まく情勢は、大きく変化
しています。とくに、昨
年末の東欧における激変
は、パレスチナ革命のみ
ならず、世界の人民の大
たかひへ大きな影響を与
えています。

東欧の激動と パレスチナ革命

東欧の激変は、一方に
おいて、人民が歴史的原
動力であることを、パレ
スチナ革命の発展と同様
に、示していることで
す。すなわち、人民の時
代が切り開かれていたこ
とを示しています。他方
においては、東欧におけ
る人民革命の発展が未成
熟な分、帝国主義とシオ
ニズムがそれを利用しよ
うとしていることです。

東欧の激変は、人民が
主権者となり得ていなか
った、「社会主義」を拒否

東・欧・の
民主化運動

私たちの課題は何か

人民自身の手、主
権を獲得しようとするた
たかひとしてありまし
た。いかに「社会主義」
を名のろうとも、人民の
意志を踏みにじるもの
は、歴史のこみ相へとは
うりこまれてしまったこ
とを示しました。これは、
パレスチナの人々が、
「東欧の人々は自分達の
石つぶてのたかひを争
んだのだ」と誇りをもち
て語るように、人民の抑
圧者に対する共通の意志
を示しています。

しかしながら、この東
欧の人民革命が急激に進
行した分、人民の解放を
実現する主体の発展が遅
れていきました。それは、帝
国主義に対して、経済的
な困難からの従属的な政
策をとり、また、シオニ
ズムに対しても、その物
質的な力の前に従属する
ような政策をとることに
なっています。帝国主義
とシオニズムは、それを
最大限に利用しています。
帝国主義は、東ドイ
ツの選挙に明確に見ら
れたように、直接的に介
入し、その物量をもつ
て、他の勢力を圧倒し、
資本主義の幻想をふりま
すことにより、選挙を
乗っ取ってしまいました。
また、シオニズム
は、世界シオニズムの力
をもつて、東欧への政
治、経済に介入し、一連
の東欧とイスラエルの外

ソ連・東欧での 社会主義のあり方の問題

交関係の回復に成功し、
また、ソ連のユダヤ人の
移民をパレスチナにむけ

東欧の激変の根本的な
問題は、ソ連、東欧での
社会主義のあり方の中に
あります。社会主義・共
産主義という人類を解放
する思想をもつて社会を
つくりだしていた諸国
が、実際には、人民が革
命と社会の主人公である
という根本的原理をわ
すれたあり方になり、そ
の激変が問われたので
す。

東欧の人民は根本的に
は、三つのことを要求し
ました。第一には、一党
支配の問題です。一党支
配は、第一に、複数政党
制、議会民主主義を求め
たことでした。第二には、
経済における中央集権的
計画経済の否定です。第
三には、民族的自決の
問題であり、これまでの
ソ連を中心とした社会主
義陣営という考えを否定
しました。

第一の問題は、一党支
配が人民を解放するもの
ではなく、人民を抑圧す
るものになってきたこと
です。もともと、プロレ
タリア独裁、プロレタリア
アートの政治権力の獲得

ることに成功していま
す。これは、パレスチナ革
命から見れば、終極によ
って、国際的に孤立した
シオニストへの救済であ
り、また、大量のユダヤ
移民のパレスチナへの送
り込みは、パレスチナ革
命だけでなく、アラブ民
族総体に対する深刻な挑
戦となっています。これ
は、イスラエルに、人口



不屈に続くインテリファダ

は、住民の多数をしめる
労働者階級による支配、
すなわち、より徹底した
民主主義を実現するもの
としてありました。しか
し、それが党の独裁とな
り、また、労働者階級の
前衛である党が、その利益
の体現者である党が、実際
には、労働者階級の利益
に合致しないあり方にな
っていったこと。その
根本として、党は、進ん
だ前衛であり、おくれた
人民を指導する」という
図式は、実際には、党が

比の転換による被占領地
の「民主的」併合の可能
性を拡大させていくこと
になるのです。
東欧の人民の解放のた
めの人民革命の位相とパ
レスチナ民族解放の人民
革命の位相の相違が、人
民抑圧者に対する共同を
つくりだすことを困難に
しています。

党の不断の 自己変革と自己批判

人民を支配の対象とする
というあり方をつくるこ
とになっていました。と
りわけ、その党と見解を
異にする勢力、また、批
判する勢力に対する不寛

容な態度は、抑圧的なも
のとしてありました。
第二の問題は、中央集
権的な計画経済の問題で
す。ソ連、東欧の経済
は、出発点として、資本
主義的な浪費や不安定さ
を克服し、より効率的
で、安定した経済をつ
くりだすことをめざして
きました。しかし、現実
にあらわれていたものは、
経済の官僚主義的な
浪費の拡大と慢性的な消
費物資の不足、経済の停
滯でした。そして、その
経済のすべてのプロセス
から社会の主人公である
べき人民の意志を系統的

第三の問題は、民族自
決の問題です。社会主義
諸国では、ソ連を中心
にした社会主義共同体と

して、世界社会主義への
プロセスと位置づけられ
た関係にありました。し
かしこれが、現実には、
東欧諸国のソ連への従属
と「制限主権論」に従属
とされている各国の自決権
の否定となっていました。
これは、ソ連を社会
主義の原基として拡大す
ることが世界社会主義に
なることとする考えが、他
に根強くあり、主観的に
は国際的な分業が、共同
防衛と言ったことが、その
社会主義圏を従属させる
構造になっていました。
レーニンが定式化したよ
うに、世界社会主義の実
現には、民族の自決の承
認とその内部からの自発
的な統一への要求に基づ
かねばならず、それがな
ければ、結局は抑圧し
かねないことを現実的に示
しました。

に排除し、強大な官僚機
構への人民の従属を創り
出す結果となりました。
これは、共産主義がめざ
す、人民自身が決定し、
実行することによって、
官僚機構という特殊な存
在を消滅させるという思
想にまったく反した。すな
わち、人民にわたって、こ
のような経済が自分達の
ための経済である、と考
えることが、まったくで
きないものとなっていま
す。反対に、官僚は
その特権を利用して、人
民を支配し、搾取するこ
とが可能になっていたの
です。



東欧における人民革命
の発展は、未だ帝国主義
とシオニズムがふりま
す資本主義の幻想のな
かにあります。しかし、
現在の東欧人民革命で東
欧人民が示したように、
人民はその幻想をやぶっ
て前進するでしょう。そ
して、そのと、パレ
スチナ民族解放をめざす人
民革命とひとつになるこ
とができます。

帝国主義本国で 徹底した民主主義を

とにより、困難にある東
欧や第三世界の人民革命
を支援しつつ、一体にな
って、勝利に向かって前
進していくことができる
のです。そして、それ
は、帝国主義による軍事
的、経済的な力による人
民革命の暴行、シオニ
ストによる暴行を阻止し、
発展させることができる
のです。

われわれに問われている
ことは、帝国主義本国
における民主主義の徹底
をあらゆる分野で実現
し、人民の主権を確立
し、共生の道をもとめる
ことです。

しかし、日本の人民革
命における根本的な問題
も、共産主義者の党の在
り方にあります。とりわ
け、人民のたかひを統
一する要になるべき党

この現状の人民革命の
発展の根本的な問題は、
われわれ帝国主義本国内
人民革命が立ち遅れている
結果としてあります。帝
国主義内部での人民革命
の問題は、経済的に困難
の前進を阻む主体的な問
題としてしまっています。その
日本共産主義者の在り方
のなかで、東欧などの
人民革命を支援し、ま
た、パレスチナなどの第
三世界の人民革命を支援
することができるとい
うことができません。

第一に、この根本的な問
題は、ソ連や東欧だけの
問題ではありません。わ
たしたちは、日本の共産
主義運動の歴史において
も、それを教訓としてき
てきたのです。
また、この根本的な問
題は、ソ連や東欧だけの
問題ではありませぬ。わ
たしたちは、日本の共産
主義運動の歴史において
も、それを教訓としてき
てきたのです。
また、この根本的な問
題は、ソ連や東欧だけの
問題ではありませぬ。わ
たしたちは、日本の共産
主義運動の歴史において
も、それを教訓としてき
てきたのです。